

④ くるくる巻きができたよ

「かーさー こーもりがさ しゅーぜん」

私の子どもころは、こんな呼び声とともに傘の修繕屋さんがやってきました。街角に腰をすえて、方々の家から持ち込まれた傘を修繕するおじさんの手元を、あきもせず一生懸命に見つめました。

握りの取れた傘、布が骨からはずれてしまった傘、骨が折れたり曲がったりした傘、こんな傘がおじさんの手で新品のようにになりました。

「もう、こわしたらあかんで」

そんな親の注意に、今度は大事に使おうと思ったものでした。

学校には置き傘がありました。竹の骨に油紙をはった番傘でした。急に雨が降り始めた日には、先生が廊下の上のほうにきちんと掛けてある傘を下ろして、

「大事に使うんだよ。そして、明日はきちんと乾かして返すこと」と貸していただきました。この傘には、大きな字で学校名と番号が書かれていました。開いたときのパリパリという音と油紙の香ばしい匂いがなつかしく思い出されます。

さて、今の子どもたちの傘はどうでしょうか。6月のある日、児童昇降口の傘立てのところに行ってみました。生駒小学校に勤務していたときのことです。昔の黒一色の傘と違って、色とりどりの傘が並んでいます。でも気になることがありました。

それは、ベルトで留めていないために半開きになったままの傘がたくさんあったことです。やってきた子どもに、

「きちんと留めておこうね」

と声かけしながら、そのままになっている傘を畳み直しました。少々かさ低くなりました。

翌朝の打ち合わせで、学級で指導してもらうように話しました。そして、雨の朝には直接指導を心がけました。そのままになっている傘を畳みながら、あることに気がつきました。それは、こうした傘の多くが、骨が曲がったり折れていたりすることでした。

「きちんと畳んであれば、こんな壊れ方はしないだろうに…」

と思いました。ちょっとした心遣いが傘を長持ちさせ、他の人の傘を傷つけなくしてくれるのです。上手に使えば長持ちする傘です。できるだけ長く使ってあげたいものです。

学校だより「すくすく」でも、

「ベルトが取れたら、代わりになるひもをつけてあげてください。そして、傘の使い方、畳み方を教えてあげてください。お宅の玄関が片づき広くなるのではないのでしょうか」

と呼びかけました。しだいにきちんと畳まれた傘が増えてきました。

次にあげたのは、こんな取り組み 2 年目の 6 月 14 日に発行した「すくすく」第 100 号の「傘のくるくる巻き」という文章です。

.....

平成 5 年 7 月 14 日発行の学校だより「すくすく」第 60 号に、傘のくるくる巻きのことを書きました。

- 1 子どものころのなつかしい傘の修繕屋さんや油紙の香ばしい匂いのする置き傘のこと
- 2 くるくる巻きができていない傘のほとんどが傷んでいること
- 3 自分の傘を大事にし、人のものにも傷つけないために、くるくる巻きをきちんとしてほしいこと

こんなあらすじでした。思い出していただけたでしょうか。

さて、それからほぼ 1 年が過ぎ、また梅雨の季節になりました。その間、子どもたちには何度も声かけをしましたし、先生たちにも指導

してもらいました。なかなか「くるくる巻き」ができない子に、放課後を使って一生懸命指導してくれた先生がいました。「せんせい、くるくるまきができたよ」という日記を読ませてもらったことを思い出します。

その結果はどうだったでしょうか。今年の雨降りの日の様子をまとめてみると、くるくる巻きがきちんとできているのが95%を超えています。「ほぼ合格だ」といっていいでしょう。

こんなことをやりかけてから、よその学校や大勢の人が集まる所に行くとき、傘置き場が気になるようになりました。例えば、市役所です。

「あまりじろじろ見ていると、傘どろぼうと間違われるかな」と心配しながら観察をしてみました。何回かの平均は15%でしたから子どもたちには大きな大きな「花まる」をあげていいようです。さらに100%にするために次の2点をよろしく。

- 1 留めひものないものには、なにか代わりになるものを付けてあげてください。
- 2 折り畳みの傘の場合、折り畳んでいないときには、ひもが内側になってしまうので、外側にもひもをつけるか、輪ゴムで留められるようにしてあげてください。

.....

こうして、傘のくるくる巻きは、生駒小学校に定着しました。子どもたちだけではありません。授業参観日においでになるお母さんたちもそうでした。傘立てにはキチンとくるくる巻きになった傘が並びます。育友会の社会見学もそうでした。貸し切りバスの入口にあった傘立てにはくるくる巻きの傘だけが入っていました。これは、生駒小学校の伝統の1つになったのです。